2027年度　国家公務員共済組合連合会　立川病院　（病床数　４５０）【1年次】

受入人数	【1年次】4名

常勤・非常勤	研修手当				時間外	休日	勤務時間	休暇				当直/月	宿舎	社会保険・労働保険等
	基本手当		賞与					有給		夏季	年末年始			
	1年次	2年次	1年次	2年次				1年次	2年次					
常勤	330,000		330,000		無	無	8:30～17：15	10		有	無	3～4回（手当支給有）	無（住居手当月額２万８千円を上限として支給）	社会保険・厚生年金・労働保険等

○ 研修診療科（必修科目）について

科目	研修内容（手技・症例数・指導医数等）
内科	慶應義塾大学内科の伝統を受け継ぎ、全人的医療を実現するべく、あらゆる疾患に対応できるように、研修医のみならずスタッフ医師も日々学んでいく姿勢を大事にしています。内科スタッフが協力して一人の患者さんを診療する風通しの良い体制を誇りとしています。6診療分野（呼吸器、循環器、消化器、神経、血液、腎臓・内分泌代謝）を1か月単位でローテーションしながら、一般臨床医として基本となる考え方，臨床技術，治療を学び、特にプライマリ・ケアの場面で頻回に遭遇する主訴にどのように対応し，検査・治療を進めるかという点を重視した教育を行っています。症例は豊富にあり、内科全領域の疾患を幅広く経験することができます。リウマチ・膠原病内科の専門外来（非常勤）もあります。手技についても、内視鏡・心臓カテーテル・IVH等一通り経験することが出来ます。内科のスタッフは専攻医を含めて40名程度、うち日本内科学会指導医24名です。また、医師3年目以降の内科専門研修の基幹施設となっていて専門研修でも人気の高い病院です。
救急科	当院は東京都北多摩西部二次医療圏において、中心的役割を果たす高度急性期病院です。救急車の年間受入れ台数は4,500台程度となります。救急科の研修は、平日8:30～17:15、救急外来に常駐する救急専門医が指導し、ER搬入患者のファーストタッチから診療します。救急車搬入患者は、小児から高齢者、内科疾患から外傷まで多岐にわたり、縫合、ベッドサイドエコー、CPRなどの手技や、CTなどの救急画像診断、そして緊急度に基づいた救急診療能力を身に付けます。
外科	『外科志望の研修医、大歓迎です！』（病院長は消化器外科医です！！） 外科的疾患の手術適応，術前検査，周術期管理などの基礎的知識やプライマリ・ケアの実践に求められる切開・縫合などの基本的手技を習得することを目的に研修を行います。一般消化器外科を中心に、肝胆道外科・乳腺外科・血管外科・呼吸器外科・脳神経外科のサブスペシャリティについてバランスよく研修し，実践的知識や基本手技を習得することで，外科系非外科系のどの診療分野に進んだとしても生かせるような基礎的知識・技能を身に着けるとともに、後期研修で外科を専攻する場合は、そのキャリアにスムーズに進めるようある程度の専門的手技も経験できるよう配慮しています。入職初期のシミュレーションラボセンターでの縫合やCV穿刺トレーニングに加え、内視鏡手術体験トレーニングや各サブスペシャリティの指導医による日常的なレクチャーが実施されます。
小児科	2年目に慶應義塾大学病院で研修する。
産婦人科	周産期連携病院の指定を受けており、小児科との密な連携のもとに妊産褥婦ならびに新生児の医療に必要な基本的知識を研修します。また、女性特有の疾患による救急医療、女性特有のプライマリケアについての知識技能について研修します。
精神科	精神症状を有する患者ひいては医療機関を訪れる患者全般に対して，特に心理・社会的側面からも対応出来るために，基本的な診断及び治療ができ，必要な場合には適宜精神科への診察依頼が出来るような技術を習得します。また、都内で2か所のみの精神身体合併症病棟を運用しており、身体疾患を有する精神科患者の管理の実際を研修できます。希望に応じ、精神科救急、アルコール精神疾患、小児精神疾患の研修も可能な環境を整えています。
一般外来	内科ローテート中に並行研修を行います。

以下、慶應義塾大学病院から研修医への注意事項

・外科研修はその他の外科系の診療科への振り替えは認めません。
・必修科目がある病院では、必ず必修科目を研修してください。振り替えは認めません。

以下、立川病院から研修医への注意事項

・臨床研修期間中の兼業（報酬の有無を問わず）は認めません。
・臨床研修期間中の当院以外の者との雇用契約締結は認めません。

必修科目の研修ができない場合、選択可能な診療科

【病院紹介】
東京都多摩地区の中心都市・立川。駅周辺には大型商業施設やオフィスが集まり、ショッピング・グルメ・カルチャーが融合する都市空間が広がっています。新宿まで約27分という快適なアクセスも魅力のひとつです。

－ 立川病院で磨く、医師としての土台 －

当院は、がん、災害、感染症、救急、周産期、精神、難病など多様な分野に対応し、地域医療の中核として機能しています。高度急性期に対応する体制と専門スタッフを備え、日々、命と暮らしに寄り添うケアを提供しています。
そして何より、《 教育の立川 》として知られる研修環境が特長です。少人数制による密度の高い臨床経験、手厚い指導、そして学びを支える臨床・教育研修センター。研修医一人ひとりが、確かな力を身につけ、安心して成長できる場所です。
医療の現場で、人を育てる。それが、立川病院です。

【内科指導医からのメッセージ】
必修科目である内科では、呼吸器、循環器、消化器、脳神経、血液、腎臓・糖尿病・内分泌代謝の各サブスペシャルティ領域を、1カ月ずつローテーション研修します。研修医は入院患者の受け持ち医として、主治医と協力しながら診療にあたります。担当医師として、医療の入り口（救急搬送、予定入院、紹介受診）から出口（自宅、施設、転院など）までを経験できます。
週1回の内科カンファレンスでは、研修医が担当患者の身体所見、検査結果、プロブレムリスト、治療内容や今後の方針、病状説明、退院調整などをプレゼンします。カンファレンスには全内科スタッフが参集しており、質疑応答を通じて診療スキルの習熟を図ります。学会発表に挑戦する研修医も多く、毎年のように優秀演題賞を受賞する研修医が出ています。
各科指導医によるミニクルズス（小講義）も豊富に実施しており、必須知識の修得を手厚く支援します。医療機器やシミュレータを活用した実践的な研修も多数用意されており、臨床力の向上に直結する学びの場が整っています。

○研修医からのメッセージ
後期研修医から各領域の専門医の先生まで，世代を超えた教育体制と，個々の自主性を重視したプログラムが特徴で，積極的に行動すれば初期研修医のレベルを超えた技術を身につけられます。病院の規模に対して研修医数が少ないため，症例・患者数が足りないことはなく，common diseaseの診療をしっかり学べます。コメディカルのスタッフとの関係も非常に良く，とても働きやすい環境でもあります。受身でいるよりも，自ら学ぼうとする意欲を持った人にこそマッチした病院と思います。学会発表の機会も多い病院です。

研修実施責任者：　森谷和徳

※問い合わせ先
担当部署・担当者名：　臨床・教育研修センター　髙安

住所：　立川市錦町4丁目2番22号

TEL：　042-523-3131

E-mail：　cec@tachikawa-hosp.gr.jp